

人間の看護の実践

ターミナルケアの基本
ターミナルケアの問題点
基本的看護の徹底

聖母病院 教育婦長 寺本 松野

サンルート・看護研修センター

〒530 大阪市北区西天満 3-3-11 TEL 06-364-4781

死に臨んでいる人のケア

ターミナルケアの基本

1. 人間の基本的欲求の充足
2. 信頼関係の締結
3. 人間成長の実現

ターミナルケアの問題点

1. 私（自分の姿勢）
2. 患者
3. 家族
4. 医療
5. 告知

1. 告知についての考察

「死」	
現世	来世
死の準備 (充足感と希望) 「生」への感謝	条件 浄化 ゆるし 希望 } 神仏との一致

- a) 告知をすればターミナルケアが楽になるか
- b) 告知が出来る条件
来世への浄化、ゆるし、希望
- c) 告知の効果

2. 私

看護婦というプロ意識を持った職業人としての「私」は、何を持たなければならないか。

職業人としての外面的なもの、公的なもの

- ・職業倫理
- ・専門的知識
- ・技術
- ・教養
- ・コミュニケーション能力

母 性

- ・人間である、弱さを知る
- ・いつくしむ心、やさしさ

患者は、やさしさを看護師に求める。

自分の人生観、死生観、生命観
患者との関わりの中で欠かせない

3 . 患 者

患者とどのように関わるか

a) 患者の気持ちを理解する

自分がいやなことは、患者もいや

自分が怖いことは、患者も怖い

自分を深く考えることによって、患者の気持ちも理解できる。

理解した上での処置が必要

b) 患者を決め付けない

やっかいな患者

看護師の都合で、そう決め付けていないか

c) 患者の個性、背景は多様である

深い関わりを通して理解する

4 . 家 族

家族の気持ちは多様である

a) 亡くなった患者の家族

誰かに悲しみをぶつきたい

看護師は、逃げていないか

b) 末期患者の家族

ガンだから、この病気だから、仕方がない

あきらめ、自己保身

患者家族は、敏感に感じ取る

c) 家族の不安、心配

病状を何度聞いても納得しない

家族の不安、心配な気持ちを理解する。

5 . 基本的看護の徹底

ターミナルケア

基本的看護を徹底させること

同じ処置に対しても、一つの言葉の有無が看護の質を決める

ターミナルケアとは

いつ、いかなる、どのようなことがあっても、
そこで立ち止まり、看護し続け、支え続けること。
そして、支えられること

患者より学ぶもの

末期患者の看護のあり方

末期患者の看護の基本姿勢

すわりこむ事と耳を傾ける事

感情の重視と理解的態度

淀川キリスト教病院 副院長 柏木 哲夫

サンルート・看護研修センター

〒530 大阪市北区西天満 3-3-11 TEL 06-364-4781

末期患者の看護の基本姿勢

病院の役割の変化

病院で死を迎える人

全 国 60%

6大都市 70%以上

ガンによって病院で死を迎える人

全 国 85%

6大都市 90%以上

病院は、病気を治癒させる所であるが、死を迎える所でもある。

末期患者のケアが必要となる。

1 . Death is Natural

「死」は、人間の自然な営みの一つ

死を恐れずに、誰にでも起こる当たり前のこととして受けとめていく姿勢が必要

2 . 看護における平等意識

医 師 患 者

看護者 患 者

いつの間にか、医師・看護者は1 up し、患者は 1 down してしまう。

いかに我々は平等かを伝える。

末期患者の看護の基本姿勢

1. 患者は、交わりを求めているということを認識する。
2. 患者は、そこで我々と共に人生の総決算をする。
我々は、そり総決算に参加させて頂くんだという気持ちを持つ。
3. 「死」ということ、「死を語り合う」ということを絶対化しない。
4. 平等意識を持って、患者の看護にあたる。

すわりこむ事と耳を傾ける事

1. すわりこむ事の大切さ

立って話をする事

時間の保証がない

出て行く用意をして入ってくる。

声、視線が上から下へくる。

威圧感、圧迫感を与える。

自然に 1 up してしまう。

「ベッドサイドに立つ……」 熟語のように「あたりまえ」になっている。
時間の長短に関係なく、座り込むことが必要。

2. 耳を傾けること

耳を傾げるために、すわりこむ事が必要。

聞く (hear) - ただ何となく聞く

聞く (listen) - 個人的な関心をもって聴く
耳を心にして聴く

積極的傾聴 (Active-Listening)

訴えかけている側は、聞いているのか、聴いているのか、鋭敏に解る。

3. 共に在ること

話すことが出来なくなった患者とのコミュニケーション

感情の重視と理解的態度

1. 感情に焦点をあてる

a) 内容と感情

会話の表面に表れてくる内容

奥に隠された、つらさ、やるせなさの感情

感情に焦点をあてた会話

b) 患者への問いかけ

今日は痛みは、ましですか

・ハイ、イエエでしか答えられない

- ・患者が何を訴えたいかを無視
- ・こちらの聴きたいことのみ聞く
いかがですか？ どうですか？
- ・何でも言える
- ・限定しない問いかけ

c) 感情を受けとめた会話

患者の感情

- ・つらい
 - ・悲しい
 - ・しんどい
 - ・やるせない
 - ・さみしい
- 感情に、こちらが気付いて、感情を伝える。

2. 理解的態度

「看護師さん、もうダメなんじゃないでしょうか」という患者の問いかけ

どう答えるかによってターミナルケアの質が決まる。

a) はげます

当然な態度と思っている（本能的、大半）
安易な励まし 自己保身

「死」、「ガン」という話題につきあたる前にかっこよく、
自分が傷つかないように途中で会話を切りたい。
但し、励まして欲しいと思って弱音を吐く患者もいる。

b) 理解的態度

「看護師さん、もうダメなんじゃないでしょうか」

「そんな気がするんですね」
患者の言われた言葉を、こちらが消化して返して行くと、
患者がリードして会話は持続する。

「死」へのこわさは訴えるが、この恐さ、不安をなくしてくれとは言わない。

この恐さ、不安を理解して欲しいと思っている。

まとめ

末期患者の看護のあり方の基本は

交わりを求めながら、人生の総決算をしようとしている患者に対して、
患者のベッドサイドに座り込んで、患者の言葉に耳を傾け、感情に焦点を
あわせながら理解的態度をとって行くこと。